

之

南無妙法蓮華經

10-
16
2
3
4
5
6

一、
下
十
三
五

书到病除 子思子思子思

あつたを病に引かぬ

以爲一人之元氣

此乃荀子之書也

卷之四

卷之四

五

今夕何夕

少嘉禾

卷之六

卷之六

山莊記

卷之五

卷之五

張氏之
以心為

てふは、
女房の定名始めてある

予中定教將定之為多矣

寸檠直下影千苔

電 海川松井河合安江重吉

17

十五

子

何子英

香林石所集

南書院藏

[illegible]

743

卷六

常

常憲 沈

竹境

所同之乎

多知愛宜何從
守其德而忘其

陽之為本陰之所由生也故曰一陰一陽之謂道

一、城市改革多转手，手手不交，数

一 昔の事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふ

一 昔の事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふ

事なりとて思ふ

事なりとて思ふ

一 昔の事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふ

事なりとて思ふ

事なりとて思ふ

一 昔の事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふに世に於ては

一 昔の事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふに世に於ては

一 昔の事なりとて思ふに世に於ては

事なりとて思ふ

一 高野の寺に於て平家書きたる書状あり
之に所為の如く 汝等利に利をばせむ
中平書院常中利に利をばせむ
海内之をばせむ 汝等利に利をばせむ
以て利に利をばせむ 汝等利に利をばせむ
此の如く

一 高野の寺に於て平家書きたる書状あり
之に所為の如く 汝等利に利をばせむ
中平書院常中利に利をばせむ
海内之をばせむ 汝等利に利をばせむ
以て利に利をばせむ 汝等利に利をばせむ
此の如く

一 高野の寺に於て平家書きたる書状あり
之に所為の如く 汝等利に利をばせむ
中平書院常中利に利をばせむ
海内之をばせむ 汝等利に利をばせむ
以て利に利をばせむ 汝等利に利をばせむ
此の如く

一 高野の寺に於て平家書きたる書状あり
之に所為の如く 汝等利に利をばせむ
中平書院常中利に利をばせむ
海内之をばせむ 汝等利に利をばせむ
以て利に利をばせむ 汝等利に利をばせむ
此の如く

予之為人，
 其志也高，
 其行也正，
 其心也平，
 其氣也清，
 其言也直，
 其貌也古。

五

首名優育少壯兵 勤工愛

午

大德至孝

竹園寺記

ちやうど

沈嘉祿

卷之四

別後是箇中秋夜

孝のたが

此是時義之印。神宮子也。此是時義之印。神宮子也。

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 一 一

一 華人の保護を以てする

一 華人の保護を以てする

一 華人の保護を以てする

一 華人の保護を以てする

一 華人の保護を以てする

一 華人の保護を以てする

一 華人の保護を以てする

一 華人の保護を以てする

[illegible]

十九日

今知其一例

一、皆以任中為名

松年十集卷之九

李俊承

五言古詩
五言古詩

清高所系至重此曾讀我子之書年
 後必知此心之永升此理之深遠也
 吳克勤父之書也

一 江戸の町を歩くと、
あんなに賑やかな町は、
他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

あんなに賑やかな町は、

他にはない。

金吾

臨江助

古為今用
古為今用

七

[illegible][illegible][illegible]